



認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう みんなる

mingle

2025.7
Vol.81



たぶんかギャラリー

<インドネシア>

ナシゴレン

たぶんかフリースクール杉並校

木谷先生撮影

代表理事交代のご挨拶 …1
わたしのくに紹介 …1
多言語高校進学ガイダンス… 2
フリースクールスポーツ大会…3
活動報告（フリースクール）…4
特集… 5・6
活動報告（ハートフル）…7
活動報告（土曜日学習支援教室）…7
活動報告（放課後教室）…8
活動報告（高校支援）…8
先生の声… 9
卒業生にインタビュー…10

インドネシア



代表理事交代のご挨拶

代表理事 石塚達郎



5月末に代表理事に就任した石塚達郎です。皆さまのお力をいただきながら、多文化共生センター東京の事業を推進してまいります。

日本でも海外でも、寛容性や包摂の心の不足を見聞きすることが増え、とても心配しています。多様性を認め合い、共生社会を作っていくことが、ますます重要な時代になってきたことを痛感しています。

来日した子どもたちが学んで成長し活躍できる国・日本でありたいと願い、日本が海外から選ばれる国になるよう私たちの地道な活動を通して、貢献して参ります。

2025年度がスタートして、4か月が過ぎました。これまでの日常や常識とは違う気候や社会の様子で、今年はますますの猛暑が心配されます。

1年前のこの欄でも報告されていますが、外国にルーツを持つ子どもたちは、急激に増加しています。今年は昨年よりもその様子は顕著な実感があります。

6月29日に開催した多言語高校進学ガイダンスは、昨年度の74家族から約1.5倍の107家族と大幅に参加者が増加しています。高校受験の準備の学びの場であるフリースクールでは、昨年度よりも一ヶ月早く受け入れのキャパを超え、6月時点で入室をお断りする厳しい状況になっています。少しでも日本語を学ぶ機会をもてるように、土曜日学習支援教室、金曜日の放課後教室などを紹介しています。

急増する子どもたちへの最初の集中した日本語支援は非常に重要で、学ぶ場の準備に向け、生徒のサポートをしっかりと実践していきます。学びの場の充実にむけ、様々な団体・機関などとの連携を強化してまいります。

わたしのくに紹介 ～インドネシア共和国～



今号の「わたしのくに紹介」は、インドネシア共和国です。たぶんかフリースクール杉並校のKさんの出身地です。Kさんが「ナシゴレン」というインドネシアの料理の作り方を教えてくださいました。インドネシアの人口は2億8,300万人、面積は約190万km²、日本の約5倍と広く、赤道にまたがる地域に1万7000を超える島々からなる世界最大の群島国家です。農業が盛んで鉱物資源にも恵まれ、日本との貿易も活発です。

インドネシアの有名な食べ物にナシゴレンがあります。ナシゴレンはインドネシアのチャーハンです。簡単でおいしいです。作り方は、最初にフライパンに少し油を入れます。にんにくを炒めて、いいにおいがしたら、卵を入れて混ぜて炒めます。次に、白いご飯を入れて、よく混ぜます。「甘いしょうゆ」(注1)と塩、コショウを入れて味をつけます。最後に全部よく混ぜて、熱くなったら出来上がりです。クラッカーといっしょに食べてもおいしいです。

使う材料は、白いご飯、にんにく、玉ねぎ、卵、「甘いしょうゆ」(注1)、塩、コショウ、唐辛子、油です。ナシゴレンは朝ごはん、昼ごはん、晩ごはん、いつでも食べられます。とてもシンプルで、日本に来る前は、毎日のようにナシゴレンを食べていました。朝も昼も夜も、いつ食べてもおいしいと思います。

※(注1) kecap manis (ケチャップ マニス) というインドネシアの調味料のこと。大豆を原料として発酵させたソイソースで、甘みがあるのが特徴。

6 月 29 日(日)に文京区の東洋大学で「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を行いました。当日は、107 家族 212 人の相談者が来場し（表 1）、見学者や運営スタッフを合わせると約 280 人もの参加者となりました。相談者にルーツのある国・地域は 15 ヶ所におよび、中国語、英語、タガログ語、ネパール語、タイ語の 5 言語の通訳者に協力をお願いしました。

<表 1>相談者実績

相談者数	107 家族 212 人 (生徒 97 人、保護者等 115 人)
ルーツのある国・地域	中国、香港、ネパール、タイ、 フィリピン、バングラデシュ、 ベトナム、イギリス、イラン、 インド、ウズベキスタン、韓国、 ミャンマー、ロシア、日本



会場では、高校の種類や入試スケジュール、出願までに準備するもの等についての全体説明を行った後、通訳者を交えて高校教員や支援団体に個別に相談できるブースに案内しました。



今回は相談者数が 200 人を超えたことで、このように情報を得られる機会が一層求められている現状を目の当たりにしました。

また、終了後のアンケートには、「日本語ができない。これからどうすればいいか。」というコメントも多くあり、ガイダンスでの情報提供の後に、継続して日本語サポートを受けられる体制などの構築・整備が必要とされていることも明らかになりました。

◎高校入試に関する情報は、当センターや進学ガイダンスの HP で見るができますので、こちらもぜひご利用ください。「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイド」も日本語・英語・中国語・ネパール語で読めます。



- ◆ HP「多言語高校進学ガイダンス in Tokyo」

<http://www.tokyoguidance.com/>



- ◆ 今後のガイダンスの開催予定

詳細は上記 HP をご参照ください。

【八王子】 2025 年 9 月 21 日（日）

【品川】 2025 年 10 月の予定

【新宿】 2025 年 10 月か 11 月の予定



スポーツ大会

6月19日(木) 株式会社セールスフォース・ジャパンさんのご支援でスポーツ大会を行い、フリースクールの生徒、セールスフォース社員のみなさん、先生とスタッフの総勢 59 名でバスケットとバドミントンを存分に楽しみました。

この日に備えて 13 時間も睡眠したり、マイラケットを持って朝一番に登校したりする生徒もいて、どんなに待ち望んでいたかがわかります。

バスケットでは、フリースクールVSセールスフォースや荒川校VS杉並校など、チームメンバーを替えてたくさん試合を行いました。水分を補給する時間も惜しむようにコートへ飛び出す生徒たち。初めてバスケットに挑戦する生徒はルールもわかりませんでしたが、セールスフォースの社員さんにあたたく見守っていただき、みるみるうちにドリブルが上達しゴールも決まっていました。

バドミントンでは、ペアを作ってラリーの競争をしたり、ダブルスで試合をしたりしました。社員のみなさんはとても上手で、楽しくなごやかにバドミントンをしました。

スポーツで思い切り体を動かしながらの日本語での交流は、フリースクールの先生以外の日本人と初めて話す時間にもなり、忘れられない思い出となりました。

セールスフォースのみなさん、このように貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



ホラズティヤのみなさん ありがとうございました。

昨日の運動会では、私は他の生徒や、ボランティアさんと一緒にバ
スケットボールの試合をしました。何回も負けているけど、みんなと協力する
のはとてもたのしかったです。ありがとうございました！

さのうあざくざりバーサイドスボーツセン
ターへ行きました。そこでスボーン大会があ
りました。きのうははともあつかったです。
そしてひとがおあつたです。私のバスケッ
トボールのチームには五人のメンバークいま
した。☆☆さんと☆☆さんはバスケットボー
ルがとこもじょうずです。大会がはじまるま
えに私はスビーチをしました。人がたくさん
しましたからドキドキしました。セールスフ
ォースの人たちはとてもしんせつです。すざ
なみカッこののせいともいしました。すざなみ
カッこのめたらしいともだちもでました。
バスケットボールをしたいたとき、私はチー
ムのメンバークをたすけるためにさいせんをつ
くしました。バドミントンもとてもたのしか
つたです。あそんでからそうじをしました。
その二、私はもうべつスビーチをしました。
みんなでしんちをとりました。とてもたの
しかつたです。

たぶんかフリースクール荒川校

2025 年度も 18 名の新入生を迎えて早 3 か月、休憩時間のたびに教室のあちこちから元気な声が聞こえてきます。

今、私が担当している日本語 2 クラスは、9 名で 7 か国、大半が非漢字圏の出身者という多文化クラスです。初めの頃はシーンと静まり返っていた教室も、授業中、困っている T さんにクラスメイトが小声のサポート。T さんは休憩時間にお菓子でお礼を。やがて片言の日本語でのおしゃべりや笑い声が聞こえるようになり、ノートの貸し借り、スマホの情報交換と日々進化していきます。初級日本語学習の文字の洪水の中、皆、

に異文化コミュニケーションのお手本そのものです。

一方、日本語 1 クラスは体格の良い男子が多く、講師も押され気味で、つい大学生に接しているような錯覚を起こしてしまいがちですが、ふとした時に見せるあどけない振る舞いや繊細な表情が、彼らがまだ 15～16 歳という大変微妙な年齢であることを思い出させてくれます。加えて 7 月には日本語 3 クラスのメンバーを迎え、教室はますます賑やかになりそうです。

ほとんどの人が日本語は第 3 言語という複言語話者の彼ら。中には第 4 言語の人もいます。大きな可能性を秘めた若い人たちに、これから日本で学ぶための手段である日本語を何とか身につけてほしいと講師も日々奮戦しています。 【講師 縣正子】



たぶんかフリースクール杉並校

昨年は 8 か国から一人ずつの 8 人というクラスがあったのですが、今年 5 月にスタートした日本語 2 クラスは、9 人全員がネパールから。例年、ネパールからの生徒は多いのですが、全員というのは初めてです。

みんな言葉が通じて安心感があって居心地がいいのか、スタートから 1 ヶ月、全員欠席・遅刻・早退なしの皆勤！それはとてもいいのですが、今のところ毎日の生活で日本語がわからなくてもそれ程困ることがないのか、日本語を学ぼうという意欲が少々乏しく、テストの時も宿題も周りの人の助けに頼り切って、自力で取り組もうという姿勢が余り見られない人もいます。

授業中熱心にノートを取る、というのも余り見られない光景ですが、6 月 19 日のスポーツ大会の翌日、「ボランティアの方々への礼状を書きましょう」と用紙を配ったら、みんな様々な色の蛍光ペンを使って、心を込めて、ひらがなとカタカナとネパール語で丁寧に書いていました。

荒川校の生徒達やボランティアの方々と一緒にスポーツを楽しむという新鮮な体験ができた満足感があったのではないかと思います。

これからも、日本で色々な体験をしていく中で、日本語をしっかりと身につけようという自覚が芽生えてくれることを願っています。

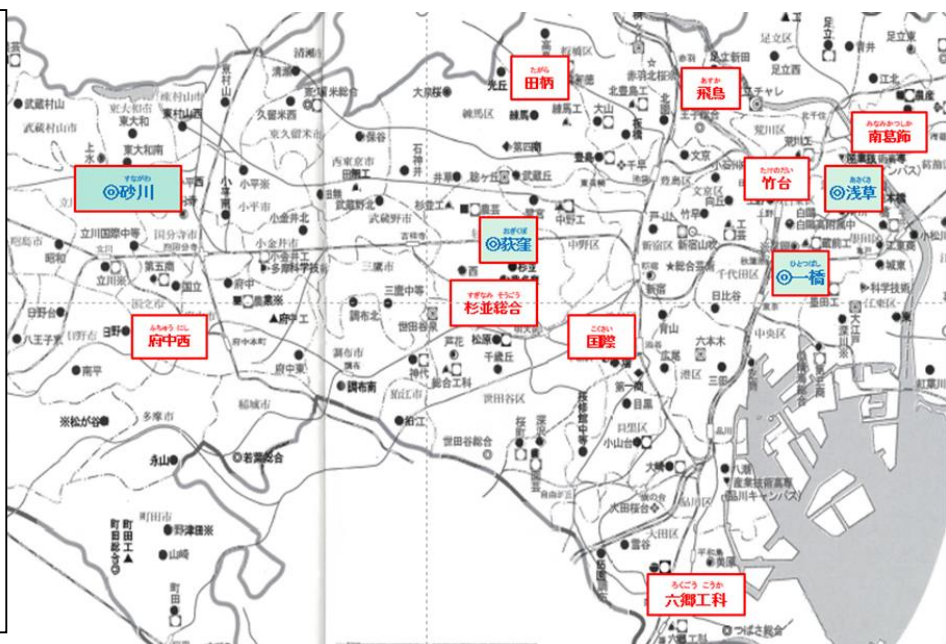
【講師 伊東千恵】



たぶんかフリースクール卒業生はどんな高校に進学しているのでしょうか。卒業生の進学が多い在京外国人生徒等対象入試を実施している東京都立の12校を紹介します（青は2025年度に同入試制度開始の学校）。

在京外国人生徒等対象入試：

日本語指導が必要な生徒を対象とした都立高校の特別入試。一般生徒の推薦入試と同日に日本語または英語による作文と面接で試験を実施。2025年度から対象校が4校増え12校に、募集人数が60名増え240名になったが、474名が受験、234名が不合格となった。急増する生徒数に追いつかない趣旨とかけ離れたハードルの高い入試となっている。



校名・学科	所在	特色（学校からのメッセージ、青字は外国ルーツの生徒や日本語指導関連についての記載）
飛鳥 全日制普通科	北区	多くの外国ルーツの生徒が在籍し、放課後の日本語授業がある。外国語教育を重視。多彩な選択授業、英語・数学・国語では少人数・習熟度別授業を実施。特色ある学校行事で活躍を支援。
田柄 全日制普通科	練馬区	19の国・地域ルーツの生徒が在籍。少人数授業や日本語の取り出し授業があり、放課後には週2回日本語学習もある。国際感覚の育成と様々な国や地域にルーツのある生徒の活躍を支援。
竹台 全日制普通科	荒川区	750名の内、60名が外国籍の生徒。日本語を学ぶ授業や放課後の日本語指導、理解しやすいよう少人数の取り出し授業を実施。互いの文化や価値観を尊重し合える学校を目指す。
南葛飾 全日制普通科	葛飾区	外国ルーツのたくさんの生徒が学ぶ。日本語コミュニケーションⅠや国語科の取り出し授業を実施。外部の日本語講師によるJLPT対策講座を開講。教員による面談等で安心して勉強できる環境を整備。
府中西 全日制普通科	府中市	様々な国籍をもつ外国人生徒がいる。1～3年生の国語、1年生の社会は在京生だけ1クラス10人で勉強。1～3年生の日本語授業があり、放課後の日本語クラブで日本語能力検定試験の準備。
六郷工科 全日制 ものづくり工学科	大田区	工業について幅広く専門的に学ぶ。色々な科目で好きなことにチャレンジでき、将来を見据えたキャリア教育を実施。週4日70分の日本語授業などで外国につながる生徒をサポート。
杉並総合 全日制総合学科	杉並区	国語の取り出し授業、定期考査前・JLPT前の勉強会、1年生の日本語授業、2・3年生の日本語選択授業でサポート。2年次から多彩な選択科目を選んで自分の時間割を作る。
国際 全日制国際学科	目黒区	外国ルーツの生徒が多く在籍し、多様な背景の生徒が学び合う。豊かな国際感覚と優れた外国語能力を生かして国際社会に貢献できる人材を育成。少人数のグループ別学習で在京外国人生徒に対応。
砂川 定時制普通科	千代田区	三部制で、Ⅰ部・Ⅱ部が在京枠入試を実施。単位制で自分の好きな授業を選べる。国数英で習熟度別授業、選択授業では少人数編成。部活動がたくさんあり、楽しく参加できる。
荻窪 定時制普通科	杉並区	三部制で、Ⅰ部・Ⅱ部が在京枠入試を実施。午後に日本語の授業があり、日本語をしっかりと学びながら、日本の高校のカリキュラムで勉強。卒業までにJLPTのN2レベルを目指す。
一橋 定時制普通科	千代田区	三部制で、Ⅰ部・Ⅱ部が在京枠入試を実施。習熟度別授業や少人数授業、国語総合での日本語非母語話者向け取出授業等を実施し、「日本語初歩」・「日本語基礎」も含め多様な選択科目を用意。
浅草 定時制普通科	台東区	三部制で、Ⅰ部・Ⅱ部が在京枠入試を実施。自分で時間割を作る単位制で、自分のペースで学べる。充実した教育相談体制がある。

*パンフレット「在京外国人生徒等対象の選抜を実施する都立高校の紹介」、各校学校案内等より抜粋

12校のうち、5校に進学したフリースクール卒業生に学校生活について聞きました。質問は、下記の通りです。

Q1. 学校のいいところ、**Q2.** 部活・勉強などががんばっていること、**Q3.** 楽しいこと、**Q4.** 大変なこと、**Q5.** フリースクール後輩へのアドバイス

卒業生は日本語で苦労しながら、前向きに学校生活に向き合い、生き生きと学校生活を過ごしているようです。

飛鳥高校

Lさん 中国出身 飛鳥高校3年生

- Q1. 外国人向けの日本語の授業があることと、単位制高校として興味のある授業が多いことです。
Q2. 英語は高校の先生の指導と授業で英検2級を取得しました。
Q3. 高校に入ってからたくさんの友達ができ、勉強も自分で頑張っている成績を取っています。
Q4. 入学したばかりの時は先生の授業が分からなくて大変でした。しかし自分で日本語の聴力を向上させることによって、だんだん先生の授業が分かるようになりました。
Q5. 日本語をまじめに勉強すると同時に他の科目の勉強も忘れてはいけません。日本語だけ勉強して高校に合格しても先生の授業を聞くのは大変です。

田柄高校

Rさん フィリピン出身 田柄高校3年生

- Q1. 生徒は明るくてフレンドリーです。いろいろな国から来た生徒がたくさんいるのでいろいろな国の文化も学べます。
Q2. 毎日遅れずに登校して、授業にちゃんと出ることです。
Q3. 文化祭や体育祭などの様々な学校行事を体験できることや、人と交流して友達を作れることです。
Q4. 授業の内容を理解して、勉強することです。日本語が流暢ではない外国人には授業についていくのは難しいので、わからない単語や漢字の意味をインターネットで調べたり、覚えたりしています。
Q5. 欠席や遅刻をしないで、ちゃんと授業を受けることが大事です。時間があれば、家で自習をすることもいいと思います。日本語が上手じゃなくても、自信を持って、人とコミュニケーションをとって、友達を作った方がいいと思います。

竹台高校

Oさん 中国出身 竹台高校2年生

- Q1. 先生、クラスメイトや部活の人は優しいです。いろんな学校行事があります。
Q2. 国語、公共の勉強とバレーボールの部活を頑張りました。
Q3. 部活、校外学習、体育祭や文化祭などの学校行事が楽しいです。
Q4. 国語、社会の勉強が大変です。
Q5. たくさん日本語を話したり、日本語を勉強したりすることが大切だと思っています。

杉並総合高校

Kさん 中国出身 杉並総合高校1年生

- Q1. 高校ではいろいろな文化や考え方にふれることができます。みんな背景が違うから、今まで知らなかったことを知ることができたり、自分の考えが広がったりすることがすごく面白いです。
Q2. 部活には参加していません。入りたかった部活と日本語の授業の時間がかぶってしまったからです。
Q3. 体育祭は疲れましたが、楽しかったです。終わった後、中国・モンゴル・アメリカ人の先輩・友達と温泉に行きました。楽しくて気持ちよかったです。たくさん汗をかいた後の温泉は最高です。
Q4. 日本人の多くは人見知りなので、私にとっては仲良くなるのが少し難しいです。でも、がんばります！
Q5. 高校での勉強は、謙虚な気持ちで取り組むことが大切だと思います。不安なことがあれば、多文化の先輩に相談してみてください。皆さん優しいです。またファイルや色ちがいのペンを準備しておくとう便利です。

一橋高校

Kさん フィリピン出身 一橋高校2年生

- Q1. 外国からの生徒が多くて、定時制のおかげで自分のペースで授業をとることができることです。
Q2. 高校一年生の時にバレーボール部に参加して、いい成績をとれるように勉強も頑張ったことです。
Q3. 文化祭や体育祭などいろいろな学校行事が体験できて楽しかったです。
Q4. 大変なことは特にありません。
Q5. 高校に入る前に日本語をまじめに勉強して、多文化の授業だけではなく、空いている時間に自分で勉強することをお勧めします。

「私は 14 才です。」これは、今使用している教科書『中学生のにはほんご』第 1 課に出てくる例文です。留学生向けの教科書には第 1 課で年齢を聞いたり言ったりする例文や練習は出て来ませんが、中学生には必要なことなのでしょう。年齢を言う時、「11（じゅういち）」は「じゅういっさい」、「18（じゅうはち）」は「じゅうはっさい」、「20」は「はたち」となるので注意が必要ですが、幸いなことに中学生はだいたい 12～15 才です。数字にそのまま「才」を付ければ OK で、数字さえ覚えれば難しいことはありません。とはいえ間違えてしまうことはあるようで、先日は、ある生徒が「私はさんじゅうさいです。」と言いました。私が「さんじゅうはこれですよ」と言って「30」と板書したら、キャッキヤと笑って「13 才です」と言い直しました。その生徒にとっては 30 才なんて遠い未来のこと、もしかしたら想像さえつかないかもしれません。

生徒たちの年齢の幅は小さいとはいえ、この年代の 1 才差というのは大きいと感じることもあります。集中力が長く続き、教師の指示を聞き取ろうとする姿勢ができている生徒は 14 才、15 才のようです。もちろん来日前の学習環境なども影響しているでしょう。いずれにしても、ここでお互いいい影響を与え合い、通室 3 カ月が終わる頃には日本語とともによい学習姿勢も身に付けてほしいと思っています。

【講師 広田周子】



「ごみのお話」（土曜日学習支援教室）

土曜日学習支援教室では、6 月 21 日午後 2 時から 1 時間、外部講師の押田五郎さんに来ていただき、「ごみのお話」をうかがいました。学習者の親やボランティアも参加しました。押田さんは、1972 年に東京都清掃局に就職し、退職ま

での 44 年間ごみ収集作業員として勤務。その間労働組合の役員を歴任し、清掃現場の労働環境改善や人権活動にも取り組まれました。

衛生的な暮らしや美しい自然環境を守るために、ごみを適切に収集・運搬・処理することが大切だということから始まり、ごみにもたくさんの種類があることを学びました。「燃やすごみ」、「燃えないごみ」、「粗大ごみ」、そして「資源ごみ」はペットボトル、瓶、缶、プラスチック、紙などに分別して集められ、再利用されたりリサイクルされたりします。清掃工場でごみを燃やした熱が、温水プールや熱帯植物園で使われている例もあるそうです。また、ごみの中に爆発するものや発火するものが混じっていることもあるので、ごみ収集の仕事には危険がつきものです。ごみ収集は大事な仕事なのに、ごみ収集員を差別したり見下したりする人たちがいるというお話には、胸が痛みました。

最後に、押田さんが執筆された「ごみ清掃のお仕事」の書籍と絵本を寄付してくださいました。押田さん、ありがとうございました。

【ボランティア 本田恵理】



活動報告

たぶんか 放課後教室



学生ボランティアのまとめ役はインターンの林さんです。生徒と学生さんはとても仲良しで、勉強の合間のおしゃべりが楽しそうです。

2021年9月から始まった放課後教室はもうすぐ丸4年になります。昨年度は44回の活動に延べ364名の学習者が参加しました。

コロナ禍以降、日本へやってくる外国人児童、生徒は増え続けています。所属小中学校での日本語初期指導だけで学校の学習についていくことは難しく、中学卒業後の高校進学へのハードルはとても高いです。その対策として放課後教室では中学生を対象とし、学校の課題や宿題への支援に力を入れています。ひらがなやカタカナ、簡単な漢字や文法を学習しただけの生徒にとって、学年相当の教科学習は難しすぎます。しかし、母国で学習してきた数学の計算問題や英語など、できることから自信をつけさせて根気強く声掛けをしながら寄り添います。宿題プリントが一枚完成した、課題が提出日に間に合ったという経験は、子供たちの自信につながり、学校での積極的な姿勢が芽生えてきます。

特に中学3年生には受験指導として作文・面接試験への支援だけでなく、3教科や5教科受験のための手助けもしています。

放課後教室の支援者は現役の大学生ボランティアです。今年度からは文学部で日本語教師を目指す学生などが参加してくれるようになり、層が厚くなりました。外国ルーツの学生もいて、生徒との距離がさらに近くなっています。外国人の存在を身近に感じられるようになったという学生の感想を聞くと、若い世代が多文化共生を学ぶ場の提供にもなっていると実感します。

これからも息の長い活動を続けていきたいです。

【担当 石塚康子】



高校支援



今年度も昨年度に引き続き、多文化共生センター東京の独自事業として、主に都立高校に在籍する外国ルーツの生徒の支援を継続していくことになりました。

今年度の都立高校入試では在京外国人等枠の定員が80名増えて240名になったにもかかわらず、受験生がそれ以上に増加して、志願者の半分以上が不合格となる事態となりました。希望を叶えることができず不合格となってしまった生徒の多くは在京枠以外の学校に行くことになり、日本語等の支援を必要とする生徒がいる学校はこれまで以上に増えています。こうした学校では在京枠の学校と違って、支援の体制や条件が整っていない学校が多く、生徒が無事に進級・卒業できるかが心配されます。

このような事態を受けて高校支援事業では現状の把握に努めていますが、残念ながらまだ十分とは言えません。徐々に相談されるケースも増えていますが、これからはさらなる相談体制の充実と、支援者のネットワークづくりに取り組んでいかなければならないと考えています。

【高校支援担当 小綿 剛】

広田周子先生（ハートフル中学生日本語指導）

4月よりハートフル日本語適応指導事業で午前中の日本語初期指導を担当しています。これまでは日本で進学を目指す留学生に日本語を教えていました。多文化共生センター東京では2年程前から土曜日学習支援教室に参加し、中学生には多少接していたものの、中学生の集団（といっても20名足らずですが）と向き合ったことがなかったので、そのパワーに圧倒されています。この3カ月で荒川区の中学校について詳しくなりました。第一から第九中学校まであるが、第二、第六、第八中学校は無いこと、制服も学ランやブレザー、リボン、ネクタイ、チェックに無地など様々で女子もズボン着用可の学校があること、一人一台タブレットを持っていること…。これからいろいろな発見を楽しみながら日本語指導をしていきたいと思っています。



高橋史朗先生（たぶんかフリースクール杉並校 数学）

昨年の11月から杉並校で数学を担当しております。多文化共生センター東京との関わりは10年前からで土曜日のボランティアが始まりでした。コロナで一時的に中断し昨年の10月から再開しました。石油、ガスの開発を仕事としておりましたので活動の場所は外国がほとんどでした。その時に地元の方々に支えられて仕事を全うできましたので、その時の感謝の意味で外国から来られた子供達に何か手助けになればと本ボランティアを始めたのが理由です。

数学の担当を始めて、より生徒たちと身近になり、日々刺激を受け楽しく過ごしております。高校受験が目標ですが、できる限り彼らの知的好奇心を掻き立てることができればと思います。



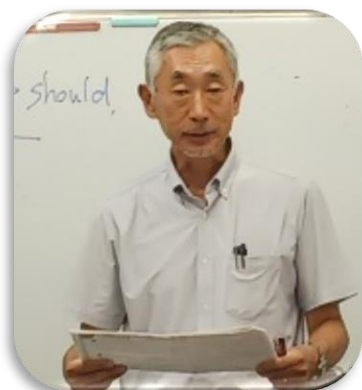
西宮正明先生（たぶんかフリースクール荒川校 英語）

長きに渡り日系、外資系企業でヘルスケア業界における消費財のマーケティングに携わってきました。現在はキャリアコンサルタントとして大学の留学生を対象にしたキャリア相談、セミナー講師などを行っています。この度は、英語講師就任の要請を受け、何らかのお役に立てるならと、お受けする事になりました。実際に始めて感じるの、皆様の高い志と熱意、そして情熱です。さらには、先生と呼ばれる違和感。民間企業では経験の出来ない環境です。少しでも生徒さんのお役に立てるよう、ご助言も頂戴出来ましたら幸甚です。



森陽一先生（たぶんかフリースクール荒川校 英語）

今年5月から英語を担当しています。前職では工業用測定機メーカーで海外営業をしていました。いわば英語を武器にサバイブしてきたようなものです。たぶんかに来ている若い人達は、「外国語（日本語・英語）はサバイブするための武器」という基本の部分です。すでに体得しているように思います。母語に加えて外国語を駆使し、これからの人生を切り拓いていってください。微力ながらそのサポートができれば、これまで私を助けてくれた「言語」とそれによって繋がることのできた人々への恩返しになるのでは、と思っています。



フリースクールを卒業した若者は、どんな進路をたどっているのでしょうか。今回は、2017 年度たぶんかフリースクール荒川校の卒業生で、現在浅草ビューホテル 26 階のスカイグリルブッフェ「武藏」で調理を担当しているトリジラクール ノンタワットさんにお話を伺いました。



「武藏」で調理をするノンさん

ー来日したのはいつですか？

2016 年にタイから来ました。日本語学校に入りましたが、同年齢の人がいましてした。家族が多文化フリースクールを見つけて入学できました。

ーフリースクールでの勉強はどうでしたか？

日本語は漢字が難しかったです、小 6 ぐらいの漢字まで頑張りました。友達がたくさんできて、楽しかったです。

ーたぶんかを卒業した後はどうしましたか？

田柄高校に進学しましたが、社会と国語の勉強が大変でした。家からも遠かったので、多文化の先生とも相談して 1 年生の 2 学期から一橋高校のⅡ部へ編入しました。

ー高校生活はどうでしたか？

一橋は単位制で、柔軟に科目を取りやすかったです。社会・国語は外国人向けの授業がありました。芸術系の美術、絵画、書道や英語等を多く選択しました。バドミントン部で楽しく過ごしました。

ー高校卒業後、専門学校では何を勉強しましたか？

事務の仕事は好きでなく、料理に興味があったので、東京調理製菓専門学校のパティシエ・ブーランジェ科に進学し、ケーキやお菓子の作り方を学びました。毎日フランス語のレシピを見て、たくさんの実習をしました。卒業制作では賞をもらうことができました。

ー浅草ビューホテルではどんな仕事をしていますか？

最初の半年は宴会を担当し、その後、「武藏」に異動しバイキングの担当となりました。初めはケーキやサラダなどの冷たい料理から、フレンチ・和食・中華まで幅を広げてきました。料理長のサブとして仕込みから、グリル・焼き物、シチューなどを担当しています。管理者的な立場で後輩の指導もしています。

ーやりがいがありますか？

自分のオリジナルの料理を出したり、お客様の前で料理をカットしたりする機会もあり、やりがいを感じています。勤務シフトが大変だと感じる時もありましたが、今は担当の仕事を頑張りたいと思っています。

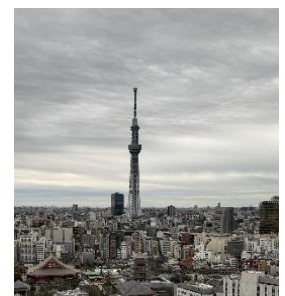
ーフリースクール生へのアドバイスがあれば、教えてください

フリースクールでも高校でも友達をたくさん作り、学校生活を楽しんでください。

ノンさんの細やかな努力の積み重ねが豪華で緻密な料理人として花開いていると感じました。職場では料理長からの信頼も厚く、新人など後輩の指導も任されているそうです。これからも仕事の幅を広げ、羽ばたいていってほしいです。



専門学校の卒業制作「月に連れて行って」



ビジョン

私たちは、国籍、言語、文化の違いをお互いに尊重する多文化共生社会を目指しています。
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ（エンパワメント）

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ（大変さ・楽しさ）を理解し、多数者である「日本人も」変わり、少数者とともに生きていく

ミッション

- ・外国にルーツを持つ子どもたちの教育機会の拡大に努めます。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちが個性や能力を発揮し、日本で活躍できるような教育の実現に取り組みます。
- ・国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

ご支援のお願い

○当センターの活動や、当センターで学ぶ子どもたちをサポートするためのご寄付をお願いいたします。

一般寄付

多文化共生センター東京の活動全体へのご支援

- ▷ **都度寄付**：1回限りの寄付をして活動を支援
- ▷ **マンスリーサポーター**：毎月定額を寄付して活動を支援（カード決済）

たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭等、子どもたちの学びを継続するための支援

次のいずれかの口座へのお振込み、または、クレジットカードからお手続きをお願いいたします。

- ・郵便局から：00110-8-407588／多文化共生センター東京
 - ・銀行から：ゆうちょ銀行／019 店／当座 0407588／トクヒ）タブンカキョウセイセンタートウキョウ
- ※クレジットカードでのご寄付は、ウェブサイトからお申込みください。

○当センターの趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる会員を募集しております。

- ・正会員 年会費 5,000 円（正会員には総会での議決権があります）
- ・賛助会員（個人） 年会費 1 口 1,000 円、3 口以上
- ・賛助会員（団体） 年会費 1 口 30,000 円

みんぐる Vol.81 2025 年 7 月発行

編集：多文化共生センター東京事務局 発行：認定特定非営利活動法人多文化共生センター東京

※「みんぐる」は、英語“mingle”＝「(2 つ以上のものが各要素で区別できる程度に) 混ざる・一緒にする・交流する」から名付けました。



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

【事務局・たぶんかフリースクール荒川校】

住所：〒116-0002 東京都荒川区荒川 3-74-6
(メゾン荒川Ⅱ201)

TEL/FAX：03-6807-7937

e-mail：info@tabunka.or.jp

Open：火曜日～金曜日…午前 9 時から午後 6 時
土曜日 …午前 10 時から午後 7 時

【たぶんかフリースクール杉並校】

住所：〒167-0021 東京都杉並区井草 2-35-5
(杉並育英 SITEC（サイテック）内)

TEL：03-6915-0200

Open：火曜日～金曜日…午前 9 時から午後 6 時

ウェブサイト <https://tabunka.or.jp>



フェイスブック、Xでも活動の様子を発信しています。
ぜひご覧ください！